

私は、字に
「軍隊の読み方がある」
とは信ぜられない



大西 巨入

海部町のユニークな人々
孫子口を現代に活かす
シヨニ派? ガイド派?

目からウロコ……

ない東堂だった。
 硬軟併せも、た巨人
 の冥福を祈りたい。(健)

徹底的に描き切った傑作だ。と書くとは何やら重苦しい印象を与えるかも知れないが、さにあらず。硬質な部分とユーモラスな部分とのバランスが絶妙で、個人邁進する話で、発行当時に最も突えるのが以時、ビジネス良好書と

この自殺率の低下には理由がある。

先日両親が長来へ故
行するといふので、木
之本宿の酒を七本鎗
を土産に所望した。以
前琵琶湖を周遊した際
最後に訪ねた富田酒造
のこの酒がいたく気に
入ったからだ。その時
は知らなかつたのだが
コ七本鎗はかの北大
路魯山人も愛飲した酒
で（店内に篆刻が飾ら
れていたので気づか
なかつた）文章でしか知
らなかつた魯山人味道
の一端に触れた気がし
てなんだか嬉しかつた
思い出がある。

銘酒コ七本鎗の名には、
は無論、賤ヶ岳の七本
槍からとられてゐる。
本年の大河ドラマで軍
師官兵衛でも盛り上
がるであろう「賤ヶ岳
の戦い」で武功をあげ
た加藤清正、福島正則、
片桐且元、隔坂安治、
加藤嘉明、平野長泰、
糟屋武則の七人。戦国
時代に疎い筆者ではあ
るが、彼らの名だけは
すらすらと書き記すこ
とができる。それはな
ぜかと言えば「巨人」
に赦えられたからだ。

去る三月に77歳で大
往生をとげた大西巨人
には、名前のごとく巨
大な長編と神聖喜劇と
がある。軍隊生活を通
じて見えてくる帝国陸
軍、ひいては天皇制の
矛盾、不条理、滑稽さ
四半世紀を費やし



大西 巨人

砲兵操典には、教
 字の正確な伝達のため
 に誤み方が定められて
 いる。それを利用して
 軍曹大前田は新兵いび
 りをおこなう。相模の
 決まり手は何手あるの
 質問に「シジユウハッ
 テ」と答えてはいけな
 い。拳骨が飛んでくる。
 軍隊的正解は「ヨンジ
 ユウハッテ」。同様に
 「秀吉の家来で槍の達
 人が何人いたか？」と
 の質問には「賤ヶ岳の
 ナナホンヤリ」と答え
 なくてはならないのだ
 が、新兵たちは頭が回
 らない。主人公東堂は
 気づいて反撃を企てる
 のだが……。軍曹の名は
 文七（ブンシチ）。一
 長殿の名は大前田ブン
 ナナ殿であります」と
 声にしたいが、軍隊だ

時事用語が随所に散り
 ばめられているが、歴
 史小説として楽しみた
 い私としては、江戸時
 代に「ロジエクト4」
 ム：もう少し違う表現
 なかっただんかいとツ
 ッこんだり。この小説
 自体はとても面白いで
 す（念のため）

参考証要集はNH
 Kの時代考証を担当し
 ている大森洋平氏の考
 証用の資料をまとめた
 もの。五十音順で様々
 な単語の解説とOK・N
 Gな用法について書か
 れており、考証者用の
 虎の巻のような体裁だ
 実際の時代劇ドラマで
 のエピソードも織り交
 ぜていて、ドラマの映
 像を思い出しながら楽
 しく読める。ちなみに
 本書の裏表紙には、目

この自殺率の低さには理由がある。
 著書の「日本の自殺」希少地域における自殺予防因子の研究」という論文を簡単にまとめると、この一冊である。一見難しそうに見えるが、自殺率の低い町ならではの町民のユニークさが多く紹介されていて、楽しく読めた。本書は、自殺率が全国でも極めて低いという徳島県にある旧海部町を著者が取材した記録だ。海部町では、赤い羽根募金は集まらないうえ、もちろん単なるリキや分らず屋が多いからそうなっているわけではない。ある方は「ゆしはこの間、クルマの修繕に大枚はた

て言うようなことか、こののだ。他に、自殺多発地Aと比較して書かれ、ている部分が多い。その中でも二町の差がはっきり出たのが以下の質問だ。自分のような者に政府を動かせるはずがないと思うか？この質問で、海部町は動かせると答える人の比率が左倒的に多かつた。このように海部町の人々は、政治に関わって、いこうという意識が異様に強いのだ。海部町の自殺率の低い理由とは一体何なのか？ここで紹介したことが一つでも気になれば、本書から学べることは必ずあるはずだ。

(著)

からウロコ。歴史ネタが満載と紹介されてゐるが、目からウロコは新約聖書が由来で、明治以降に広まった言葉なので、時代劇で江戸っ子が使ったらおかしい、とのこと。

歴史小ネタ集としてかなり面白い一冊。二本を手に、時代劇や再現ドラマにウツコミを入れるのが、さらに楽しくなりそう。

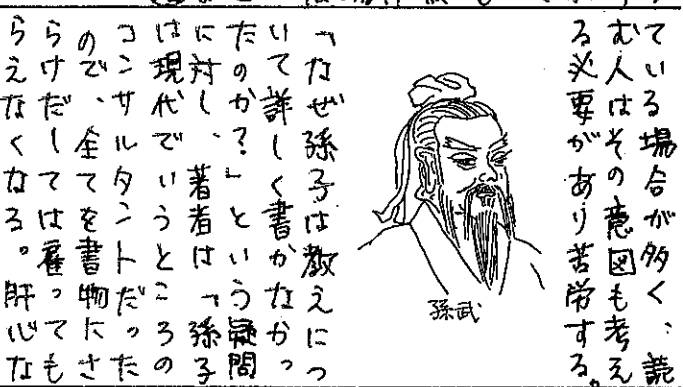
(有)

いた。そんなわけの分らない物に百円でも払いたくない」と言っている。周りに流されるようなことは起こらず、個人の自由を何よりも尊重する。それが、この町の特性の上うだ。

海部町の取材記録は本心に驚かされること多い。なんたって、この町はうつになつてゐる知り合いがいて、分かつたら、あんなに

神聖喜劇①⑤ (大西巨人・光文社文庫各100円)、魯山人味道 (北大路魯山人・平野雅章/中公文庫 943円)
軍師官兵衛①② (③④予定) (前川洋一・青木邦子/NHK出版各1400円)、小説上杉鷹山 (童門冬二/集英社文庫 960円)
考証要集秘伝! NHK時代考証資料 (大森洋平/文春文庫 620円)、生き心地の良し町 (岡檀/講談社 1400円) ※価格に本体価格です

孫子は現代でいう
コンサルタント？



ピンと来るのではない
 でしようか。二十五の
 練習曲全てを思い出す
 ことはできなくても、
 アラバスク^{アラバ}や貴婦人
 の乗馬^{乗馬}と聞けば分か
 るはず。これらの曲が
 弾ける日を樂しみに練
 習したという方は多い
 と思います。

しかし、肝心のブル
 クミユラーについて語
 れる人は果たしてどの
 位いるのでしょうか。世
 身地は？いつの時代の
 人？代表作は？本書は
 そんな疑問に答えてく
 れるブルクミユラー



うにブルクミヌラー
漫遊して、たのみに
目を向けた章がおも
ろい。今では当たり前
のように弾かれています
練習曲、最初に日本に
持ち込んだのは誰な
か？これを読めば、日
本のピアノの稽古づ
ム、最近のアレンジ曲
まで知ることができ
るのです。

歳後、ブルクミヌ
ーの生涯をたどりなが
ら彼の曲をおさらいす
れば、また違った味や
いの演奏になるかも
れません。

木曜(発売)
 現在の連載陣も、
 村靖幸、松尾スズキ、
 細野晴臣、星野源(続
 連載再開)、パフューム
 光市靖子、モテキの太
 根仁監督、などなど、
 実に豪華。そんな多彩
 な連載陣の中、ワクサ
 カソウハイの、夜の墓
 場で反省会が、待望の
 単行本化！
 ワクサカソウハイ？
 誰？コント作家？やっ
 ぱり知らないなあ。

は、見た目は普通、地
 元と家族を何よりも愛
 する。"ガラガラ系地元
 族"である。彼らはイ
 マドキの若者より、積極
 的にモノを買い、趣味
 にお金を使うというた、
 本書を読みながら、
 "ガラガラ系地元族"
 に既視感をおぼえた。
 なせだろうと考えると、
 正に同級生がこの地元
 族にピッタリ当てはま
 るのだ。彼らは地元の
 学校を卒業し、地元で
 結婚式を挙げ、小中学
 校の友達を三十名程度
 来てパーティーを開
 き、そしてそれを"Yon
 Tubeにアップロードし
 ていた。大切な地元友
 達の結婚式は、全身全霊
 純に散えた。

冒頭にあるとおり、
 孫子の教えを現代に活
 用する場合、具体的に考
 へなければならぬ。孫
 子にはあくまで、戦国時
 代における競争状態で
 の原則原理を示して
 おり、それを現代の社
 会にそのままあてはめ
 るわけにはいがないか
 らである。

抽象的に考えるため
 には、単純に教えをその
 まま貰えるのではなく、
 その奥に隠された意図
 を読み取る必要がある。
 その意図を著者はわ
 かりやすく示してく
 れている。

孫子自体には、単
 純に散えた。

第一部の孫子の教えの解説に於て、第二部は孫子の教えを現代でいかに活用するか、具體事例を多く挙げわかりやすい。孫子山を讀んだことの無い方は是非讀んでほしい。

ブルクミュラーを知っていますか

ブルクミュラーという言葉。ピアノを小中も習っていた方は

え。ブルクミユラー
って人名だったの？か
ら始めるもよし。かく
いう私も何の知識もあ
りませんでした。
彼が活躍したのは十
九世紀のパリ。同時代
の作家にはシヨパンや
リストが有名ですが、
だからといって彼らの
陰に隠れてしまふには
もったいない！超絶技
巧を必要とせずとも家
庭で楽しめるドラマテ
ィックな楽曲を数多く
提供してくれたブルク
ミユラーをもっと深く
知るために「ぶるぐ協
会」なるものを始めた
著者二人の情熱には驚
かされます。
また、日本にどのよ

そう思われるのも当然
 です。失礼ながら、私
 もいまだに何者かよく
 分かつていません。で
 もコラムは抜群に面白
 いです。みんなが薄々
 感じていながらも上手
 く言葉にできなかった
 ような事柄、感情が、
 思いもかけない発想で
 描かれていて、すっかり
 はまっています。いまは
 この人はこれからも
 ともっと売れていくは
 ず！（と信じてます）
 ちなみに、富山県出
 身の作家、ここは退屈
 迎えに来て、山の内マ
 リコさんもプロスで連
 載中。こちらも注目
 すね。

ヤンキー経済（原田曜平／幻冬舎新書 180円）、最高の戦略教科書 孫
 ブルワミヌラー25の不思議（飯田有沙／前島美保／音楽之友社 190円）、
 梅の墓場で反省会（ワクサカソウヘイ／東京ニュース通信社 150円）

※価格とは本体価格です。

編集後記：好んで書いている訳でもないのだが、追悼文が多くなるのは年のせい？ 今号編集中にはガルシア＝マルケスも亡くなり、本紙第5号に書いた「文庫にならない本」のことを思い出した。2006年のことだ。バックナンバーを調べて気づいたが、あの頃は月刊だったのね。頑張らねは…。